**全国国際教育研究協議会　平成３０（2018）年度　第２回理事会　議案書**

文責：全国事務局長　高島みゆき

＊以下、敬称は略させていただいております。

|  |
| --- |
| ■日時：　平成３１（２０１９）年２月１６日（月）1３:３０～１７：００  ■場所：　都立竹早高等学校  ■参加者：（敬称略）  【管理職４名】早川（東京：多摩工業）　大泉（東京：五日市）　松岡（奈良県：法隆寺国際）  　　　　　　　中里（東京：北豊島工業）  【教員１２名】石森（宮城：仙台二華）　宮﨑（和歌山：日高）　談儀（和歌山：南紀）  前田（奈良：近畿）　　伊東（宮崎：宮崎学園）　藤田（福井：三国）、  竹山（東京：新宿山吹）　女屋（東京：竹早） 　中村（東京：五日市）  林（東京：永山）　　　吉野（東京：板橋有徳）　高島（東京：永山）  ■欠席：５名】 大山（茨城：水戸第二）、木村（神奈川：横浜国際）、　森（愛媛：伊予農業）、　、小林（東京：練馬工業）、　太田（東京：山崎） |

議長：　大泉（東京：五日市）

【報告事項】

１　全国国際教育研究大会東京大会の反省と課題（中村、竹山）

２　高校生国際理解・国際協力に関する生徒研究発表（木村、吉野）

３　大会報告書及び国際教育インフォメーションの編集・発行について（高島、木村）

４　JICAエッセイコンテスト２次審査について（石森、中村、伊東）

５　全国会計の現在の収支と全国理事会の交通費の支出について（林）

６　第５６回全国国際教育研究大会奈良大会について（前田）

【審議事項】

１　今後の全国大会大会の予定（高島、伊東、中村、竹山）

２　事務作業の全国国際教育協会（ＮＰＯ国際研）への委託（高島）

３　各県の活動の状況把握と活動活性化にむけた取り組み（高島＋各地区担当）

４　今後の全国国際研の活動について（高島）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

＊青字は、理事会で話あわれたこと。

**【確認・報告事項】**

**１　第55回全国国際教育研究協議会東京大会反省と課題（中村・竹山）**

　○1日目に、弁論大会、研究発表会を行なったが、（来賓をはじめ多くの方々に研究発表を見てほしい）

　　時間がタイトで、特に研究発表の審査時間短く、表彰等も時間がどおりでできなかった。

○研究発表会で、プログラム原稿と内容が異なるものがあった。（来年から内容の統一徹底を）

　○会場設営で、椅子のみで机がないことが厳しかった。

　○開会式が長いので、来賓あいさつの時間短縮ができないか。（来賓挨拶の方の限定）

　○弁論大会、研究発表会の審査集計は、プロジェクターで確認より、プリンターを持ち込み、

　　紙で確認できるとよい。

**２　高校生国際理解・国際協力に関する研究発表会　（吉野・木村）**

１）　選出方法の確認（確認）

発表数は、「開催県１」「開催ブロック１」「公募４」の6校を標準とし、５～７校を目安とする。

「四国地区」は地区大会を開催しているので、順位を考慮する。選出は、大会実行委員会が決定する。同一内容の発表による連続出場は避ける。今後の県予選や地区予選を行う方向。

＊今年の四国地区大会の最優秀は、今年度東京大会出場の「徳島商業高校」であった。

２）　課題・検討事項

　○研究発表会で、プログラム原稿と内容が異なるものがあった。（来年から内容の統一徹底を）

　○審査時間を十分確保する。

３）奈良大会審査員

　　大山（茨城：水戸第二）、木村（神奈川：横浜国際）、宮崎（和歌山）から２名に全国理事として、審査を行ってもらう。

**３　大会報告書及び国際教育インフォメーションの編集・発行について　（高島、木村）**

１）２０１８年度インフォメーション第１４号

　　　今年度から、ＪＩＣＡの補助（50万円）が削除され、全国大会共催としての「プログラム・報告書代として印刷費50万円補助のみとなった。

大会報告書とインフォメーションを１つの記録誌として発行。発行部数1600部、78ページ。

「プログラム代」約194、940円支出。来年以降はプログラム代20万円目途

「大会報告書＋インフォメーション代」360,000円～37000円を支出（印刷物の郵送料も含む）

　　　　50万円を超えた分は、6～７万円は全国国際研全国会計から支出。

２）日程

　　　原稿締め切り　11月末日

　　　入稿　　　　　1月初旬

　　　印刷・発送　　2月26日予定　２回校正（コロニー印刷から直接→各県事務局）

**４　JICAエッセイコンテスト２次審査について（石森、中村、伊東）**

１）【新規】２次審査：JICA支部ごとに国際研から審査員２名参加。審査協議は、ウェーブ上行うとのことであった。

　○北海道・東北地区：２名（石森）

　○関東（茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、新潟）：２名（中村）

　○東海北陸（神奈川、山梨、長野、富山、石川、福井、岐阜、静岡、愛知、三重）：２名

　○近畿：２名（前田、宮崎）

　○四国中国：２名

○九州：２名（伊東）

　■謝礼、審査の方法など気が付いたこと

○東北地区：中高で40部ほど審査。まとめ役を決め、まとめ役に合計点を連絡。今後の審査に大きくかかわってくるので、オンライン協議（LINEでのビデオ会話）を２回を行った。全てで、１０時間くらい審査にかかった。チームワークが必要。スカイプなどのデジタル機器が必要。

○関東：中高で１４０部の審査と審査本数が多い。採点に時間がかかった。観点が違うからか、審査にばらつきがあった。集まって審査会議をした方がよい。

○近畿：４０部くらいの審査を行ったが、１次審査で上がってきたもので、主旨にあわないものがあった。

○九州：４０部くらいの審査を行った。審査基準を決めて集約した。１次審査から上がってきたもので検討が必要とするものがあった。

２）最終審査員：　早川　国際研全国会長

○審査：３０～４０部。３～４回読み直す。

**５　全国会計の現在の収支と全国理事会の交通費の支出について（林）**

　現在の全国会計の報告・・・会費の納入と支出状況

JICEからの助成金50万円を目途に、全国会計「調査研究費」から交通費を支出。

2018年度第1回全国理事会（８月全国大会前日）＋第２回全国理事会　　計（４１１，８７４円）

＊来年度は奈良大会のため、全額補助できない可能性がある。

**６　第５６回全国国際教育研究大会奈良大会について（前田）**

　別紙

２０１９年８月８日（木）～９日（金）

　奈良県文化会館小ホール【近鉄奈良駅駅より徒歩５分】

　大会テーマ：「古き都より世界に向けてLearn Now And Go Beyond」

**役割分担**

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 氏名 | 都道府県 | 地区 | 総務渉外 | 規約 | 弁論  大会 | 研究発表 | 地区担当 | ｲﾝﾌｫ | 名簿 | 全国大会 |
| 加盟促進 | PDF | アンケ |
| 高島　みゆき | 東京都 | 関東甲信越静 | 総務渉外 | ○ |  |  | 全国 | 依頼文 | ◎ |  |
| 女屋　隆充 | 東京都 |  |  |  | ○ |  |  |  |  |
| 竹山　哲司 | 東京都 | 総務渉外 | ○ |  |  | 関東・全国 |  |  |  |
| 林　真代 | 東京都 | 会計 |  | ○ |  |  |  | 名簿 |  |
| 吉野　翔子 | 東京都 | 広報HP |  |  | ○ |  |  |  |  |
| 太田　進 | 東京都 |  |  |  |  |  |  |  | 東京大会 |
| 小林　源地 | 東京都 |  |  |  |  |  |  |  | 東京大会 |
| 中村　俊佑 | 東京都 |  |  |  |  | ◎関東 |  |  | 東京大会 |
| 木村　光宏 | 神奈川 |  |  |  | ○ | 中国 | 編集 |  |  |
| 大山　峰弘 | 茨城県 |  |  |  | ○ |  |  |  |  |
| 石森　広美 | 宮城県 | 東北 |  |  |  |  | ◎東北 |  |  |  |
| 藤田　博雅 | 福井県 | 東海北陸 | 高文連 |  | ○ |  |  |  |  |  |
| 宮﨑　裕之 | 和歌山 | 近畿 |  |  | ○ |  | ◎近畿 |  |  |  |
| 談儀　善弘 | 和歌山 | 近畿 | 協力隊 | ○ |  |  | 全国 |  |  |  |
| 前田　忠彦 | 奈良県 | 近畿 |  |  |  |  |  |  |  | 奈良大会 |
| 森　恵美子 | 愛媛県 | 四国 |  |  |  | ○ | ◎中国四国 |  |  |  |
| 伊東　望 | 宮崎県 | 九州 | 高文連 |  |  |  | ◎九州 |  |  |  |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | **第５５回全国大会報告書＋国際教育インフォメーション** | **部数** |  | 送付先 |
| 1 | JICA（各支部用） | 20 |  | JICA地球ひろば　藤田様 |
| 2 | 各県事務局配布用（以下） | 1225 |  | 以下３３県 |
| 3 | 全国大会参加者用（東京大会事務局） | 200 |  | 都立永山高校　高島 |
| 4 | 各地区研究報告原稿執筆者、次年度全国総会用,賛助会員、新規加盟 | 110 |  | 都立永山高校　高島 |
| 5 | 次年度全国大会用【３０冊】 |  |  | 奈良県法隆寺国際高校 |
| 6 | 外部団体用 | 20 |  | 都立新宿山吹高校　竹山 |
| 7 | 編集者用(木村光宏） | 20 |  | 横浜国際高校　木村 |
|  | 合　　　計 | 1600 |  |  |
| 各都道府県事務局用 | |  |  | 以下、送付先は各県事務局 |
|  | 都道府県 | 必要数 |  |  |
| 2 | 青森県 | 20 |  | 1 |
| 3 | 岩手県 | 30 |  | 2 |
| 4 | 宮城県 | 50 |  | 3 |
| 5 | 秋田県 | **40** |  | 4 |
| 9 | 茨城県 | 50 |  | 5 |
| 10 | 栃木県 | 50 |  | 6 |
| 11 | 群馬県 | 20 |  | 7 |
| 12 | 埼玉県 | 20 |  | 8 |
| 13 | 千葉県 | 50 |  | 9 |
| 14 | 東京都 | 50 |  | 10 |
| 15 | 山梨県 | 20 |  | 11 |
| 16 | 長野県 | 20 |  | 12 |
| 17 | 神奈川県 | 50 |  | 13 |
| 18 | 静岡県 | 10 |  | 14 |
| 19 | 富山県 | 30 |  | 15 |
| 20 | 石川県 | 30 |  | 16 |
| 22 | 愛知県 | 50 |  | 17 |
| 23 | 三重県 | 50 |  | 18 |
| 24 | 福井県 | 30 |  | 19 |
| 25 | 滋賀県 | 30 |  | 20 |
| 26 | 京都府 | 30 |  | 21 |
| 27 | 大阪府 | 30 |  | 22 |
| 28 | 奈良県 | **80** |  | 23 |
| 29 | 和歌山県 | 30 |  | 24 |
| 30 | 兵庫県 | 50 |  | 25 |
| 31 | 鳥取県 | 20 |  | 26 |
| 33 | 島根県 | 20 |  | 27 |
| 36 | 徳島県 | 30 |  | 28 |
| 37 | 香川県 | **50** |  | 29 |
| 38 | 愛媛県 | **70** |  | 30 |
| 39 | 高知県 | 30 |  | 31 |
| 42 | 長崎県 | 30 |  | 32 |
| 45 | 宮崎県 | 30 |  | 33 |
| 46 | 鹿児島県 | 30 |  | 34 |
|  | 計 | 1225 |  | ３３県加盟＋静岡県 |

**【審議事項】**

**１　全国国際教育研究大会の開催　（高島、伊東、中村、竹山）**

全国大会開催の確認

2018③関東【東京都】　　⇒2019④近畿【奈良県】　⇒2020⑤東海北陸【三重県】

⇒2021⑥九州　（長崎県または宮崎県で調整中）

⇒2022⑦関東　（来年度、5月総会で話し合い）

⇒2023①四国・中国　　　　⇒2024②東北　　　⇒2025③関東

　【全国高総文祭】2017宮城／18長野／19佐賀／20高知／21和歌山／22東京／23鹿児島

**２　事務作業の全国国際教育協会（ＮＰＯ国際研）への委託（高島）**

　特に４月～５月中旬全国総会までの事務作業の煩雑さ、多忙さから、2019年度よりＮＰＯ国際研に事務作業の委託を行いたい。

１）年度当初の各県事務局のとりまとめ（４月）

２）全国総会案内送付（アドレスがわかった段階）

３）全国事務局全国国際研の事務局一覧作り（４月～５月初め）

４）全国事務局名簿（６月～８月）

５）インフォメーションの編集？（12月）

費用は、毎年NPO法人から全国大会に協賛していただいている5万円等を充てていきたい。

**３　各県の活動の状況把握と活動活性化にむけた取り組み（高島）**

＜休会県の状況＞

2015年末：山形県、福島県

2016年末：佐賀県、沖縄県、

2017年末：静岡県

2018年末：埼玉県、山梨県、鳥取県

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 地区担当者 | 休会県 |
| 東北 | 石森 | 北海道、山形（＊賛）福島 |
| 関東甲信越静 | 中村、竹山 | 新潟（＊賛助）、静岡（30～）山梨・埼玉（31～） |
| 東海北陸 | 藤田 | 岐阜 |
| 近畿 | 宮﨑・談儀 |  |
| 四国中国 | 森・木村 | 広島、岡山、山口 |
| 九州 | 伊東 | 福岡、佐賀、大分、熊本、沖縄 |
| 全国 | 高島、談儀、竹山 |  |

○東北地区（石森）：事務局を輪番でまわしてしている県が休会になることが多い。

宮城県は、１０年研修（選択研修）に国際教育を入れてもらい、会の周知をしてもらっている。また若手も理事をなり活躍している。休会県の山形県などは、積極的に活動している先生がいらっしゃる。

○関東甲信越静地区（中村・竹山）：静岡が30年から休会、山梨・埼玉も31年から休会の申し出。いずれも、国際学科を持つ学校または農業高校で輪番のため、事務局の負担が大きいので休会。

　埼玉県は来年度から休会となるが、JICA東京に1年間、埼玉県教育委員会から出向されているので、

　そちらの管理職の先生方に連絡先となっていただきたいと依頼。

新潟は、県独自（国際交流センター）で、プレゼンテーションコンテストを行っており、国際教育研究会を独自で立ち上げている。加茂農林高校の加藤歩先生、中越高校の関先生に、会の立ち上げ依頼。

○東海北陸（藤田）

　昨年、弁論大会のプレDVD審査をおこなった。来年度から本格的に実施していきたい。また２０２０年度、三重大会が行われるので、三重大会にむけて地区で連携していきたい。

○近畿（前田・宮﨑・談儀）

　来年度の奈良大会開催に向けて協力していきたい。

　「One World」（大学生が独自で作っている団体。企画がかさなっていることもある）などとも連携していきたい。

○四国中国（森・木村）・来年度中に、全国大会開催県を決定。

○九州地区（伊東）

　長崎県が加盟校多い（２年の持ち回り）。高文連、高文祭（国際ボランティア部門）の中でつながっていくことは可能か。休会県の先生方ともつながりを探っている。

○全国

・北海道４名は開発教育ネットワーク（D★net　前北海道教育大学副学長の大津和子先生が元代表）等に参加いただき、その中ネットワークを作ってもらう。

・新潟県は、加茂農林の加藤先生、中越高校の関先生などを中心に、既存の国際教育研究会を組織化していただくお願いをする。はじめから教育委員会の公認団体は難しいので、高文連の組織（国際ボランティア部門）となるか検討していただく。

・休会県の再組織化は、教育委員会の団体または高文連の組織として再組織化できないか検討してもらう。任意団体であると、行事の出張などが認められないので、できるだけ公認団体となるように県とする。

・早川全国会長が、高文連の自然科学の分科会にもかかわっているので、高文連組織の中で検討していただく。

|  |
| --- |
| ＜＜参考　現段階の高文連加盟＞＞  ・青森県高等学校文化連盟国際理解部  ・福井県高等学校国際教育研究会　福井県高等学校文化連盟  ・宮崎県高等学校国際教育研究会（教育委員会の公認団体）宮崎県高等学校文化連盟より一部補助金  ・鹿児島県高等学校国際教育研究協議会　鹿児島県高文連の国際交流専門部の中に含んだ形で行事運営。出張扱い。高文連からは補助金なし。行事参加校から3000円徴収。個人参加は300円。 |

■賛助会員または連絡が付く方々、エッセイ審査をお願いした方々

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 都府県 | 所　属　１ | 所　属　２ | 2018会費 | 氏　名 | エッセイ審査 |
| 1 | 北海道 | 北海道北見柏陽高等学校 |  | ○ | 敦賀　和芳 |  |
| 2 | 北海道 | 北海道ニセコ高校 |  |  | 清水　純 | ○ |
| 3 | 北海道 | 北海道札幌西高校 |  | ○ | 前田　洋明 | ○ |
| 4 | 北海道 | 北海道釧路湖陵高校 |  |  | 林　智子 | ○ |
| 5 | 新潟県 | （私立）中越高校 |  |  | 関　愛 |  |
| 6 | 新潟県 | 加茂農林高校 |  |  | 加藤　歩 |  |
| 7 | 山形県 | 山形県立村山産業高校 |  |  | 庄司　洋一 |  |
| 8 | 山形県 | 山形県立谷地高校 |  | ○ | 小林　栄治 | ○ |
| 9 | 山形県 | 九里学園SGH担当 |  |  | 鈴木　精 |  |
| 10 | 熊本県 | 菊池女子高校　校長・理事長 | 熊本県　高校生国際ボランティア部門担当 |  | 荒木真紀子 |  |
| 11 | 大分県 | 大分県立臼杵高校 | 大分県高等学校ユネスコクラブ研修会担当 |  | 丸尾　直彦 |  |
| 12 | 広島県 | 広島県立安西高等学校 | 地球市民教育塾ひろしま | ○ | 中須賀裕幸 | ○ |
| 13 | 広島県 | 広島県高等学校教育研究会  国際教育部会会長 | 広島県立福山明王台第高等学校 |  | 船山　功 |  |
| 14 | 広島県 | 国際教育部会事務局長 | 広島県立福山明王台第高等学校 |  | 小森　勉 |  |
| 15 | 沖縄県 | 沖縄県教育庁義務教育課 | 文部科学省出向18年戻る |  | 柴田　義之 |  |
| 16 | 静岡県 | 静岡県立吉原高等学校 | 元静岡県事務局長 |  | 中田　貴之 |  |
| 17 | 静岡県 | 静岡県立三島北高等学校 | 元静岡県会長 |  | 齋藤　浩幸 |  |
| 17 | 静岡県 | 浜松学院中学校・高等学校 |  |  | 中澤　純一 |  |

|  |
| --- |
| 各組織との連携・協力  【全国高総文祭】2018長野／19佐賀／20高知／21和歌山／22東京／23鹿児島  【談儀先生から】  ○『協力隊ＯＶ教育研究会』青年海外協力隊教員OV会  ○国際学科の研究大会、SGH、ユネスコスクール、ESD推進校などの各種の研究会、  多文化共生研究会、開発教育協会  【休会県における活動状況】  文部科学省（ユネスコスクール）や（ESD）との連携  北海道ユネスコ・山形国際ボランティア・福島ボランティア・岐阜ユネスコ・岡山ＥＳＤ・  広島ＥＳＤ山口ユネスコ・熊本国際ボランティア・大分ユネスコ  【社会科研究会】新カリキュラムにむけて、国際教育が学習項目になる。 |

**４　今後の全国国際研の活動について（高島）**

１）現状・課題

○グローバル人材育成、国際教育が叫ばれている。今後、入管法の改正により、外国人受け入れ施策も本格的になり、国内における外国人との共生も大きな課題になってくる。

　・日本語弁論大会の開催

　・東京都では外国にルーツを持つ生徒のための「進路ガイダンス」や「交流会」を実施している。

○県によっては、農業高校中心の県や国際科を持つ学校が輪番で行っているところもあり、加盟校が少ない。また、事務局が１年、２年輪番の県も多く、活動の定着化、改善・発展につながっていかない。

　　1年輪番２県（三重、京都）　２年輪番（１６県）　固定４県（青森、奈良、香川、愛媛）

任意１０県（千葉、東京、神奈川、石川、滋賀、大阪、和歌山、兵庫、宮崎、鹿児島）

２）　強化していくことなど

○情報発信：Webネットワークの運営拡充

ＨＰの強化、会の風景　様子など適宜アップしていく。　**FACE BOOK**などもを利用できるか？

１）HPについて：各県での活動（告知、会の風景　様子など）を、全国会長　都立多摩工業高校　早川信一校長宛てに連絡して、HPにアップしてもらう。

　　HPを持つことは、会の信用にもつながる。

２）研究論文（インフォメーション）、全国大会報告書及び国際教育インフォメーションなどもをバナーにあげ、認知してもらう。

○高校生国際理解・協力研究発表会の活性化

　この発表は、国際研のとしての重要な活動と考える。現在、公募で行っており、参加校数も少ないがので、賞はJICA支部長賞、交流基金賞、JICE賞であるが、さらに大きな賞を授与していただくには、

参加数の増加や内容の充実が必要になってくる。

　各県で、大会予選が実施できるように、すでに実施している県の開催要項や採点表などを共有する。[各県で行われている会の実施の一式を zinfo@jafie.jp](mailto:各県で行われている会の実施の一式を%20zinfo@jafie.jp) にお送りいただき、各県事務局に一斉送信する。

○県事務局校の決定のしかた

　事務局の輪番により活動の継続がうまくいかないことが多い。また固定すると組織の広がりが難しい。今後は、理事の機能（コアメンバーを確保）を高め、事務局は理事の中から輪番にするなど、活動の維持発展を考えた事務局のあり方を各県で検討してほしい。

　また、農業高校中心の県または国際学科中心の県も、加盟校拡大にむけて検討してほしい。

　また、教育委員会の研修などで、国際教育にかかわる研修を取り入れるなど国際教育の周知を行うとよい。

**■　今後の予定**

１）２０１９年度全国総会：２０１９年５月２３日（木）全国総会１４：３０～１６：３０

ＪＩＣＡ地球ひろば

３）２０１９年度　第1回全国理事会：２０１９年８月７日（水）１４：００～１７：００

４）第５６回全国教育研究大会奈良大会（近畿地区共催）２０１９年８月８日（木）～９日（金）

　　奈良県文化会館（近鉄奈良駅より徒歩、奈良公園内）

５）２０１９年度第２回全国理事会：２０２０年２月１６日？（土）

１３：３０～１７：００

　　東京都内高校（または横浜国際高校IBコースの見学を兼ねて実施できないか）